

# 今の宣教とは



蒲池明憲 著

## 序文

『今の宣教とは』と題した本書は、現代社会において、キリスト教が果たすべき役割を、実に明快かつ体系的に示しています。

著者は「人生のトータルソリューション」という視点から、復活・洗礼・聖霊・礼拝・実践・愛・共同体という七つの柱を通して、信仰が単なる教義ではなく、現実を生き抜く力であることを提示しています。

日本文化への深い理解と聖書の洞察が見事に融合しており、これからの宣教の在り方に新たな方向性を与える意欲のある冊子と言えます。

信仰者はもちろん、人生の意味を真摯に問い求めるすべての方には、お勧めするツールの一つです。

さらに本書は、未信者の方には、キリスト教を外側からではなく「生き方」として理解する道筋を丁寧に示しており、信者の方に対しては、自らの信仰を再点検する良い機会にもなり、宣教の使命を主体的に担う勇気を呼び覚ましてくれるでしょう。

理論と実践が調和した本書は、今という時代にこそ読まれるべき、希望への指針となるでしょう。

## 序文

## 目次

1 日本で生まれ育まれた『愛』のかたち……………	1
2 『武士道』より一七つの徳目……………	2
3 宣教のビジョン……………	3
4 人生のトータルソリューションとは……………	4
5 「み言葉の分かち合い」のご紹介……………	5
6 間第5主日 (サンプル) ……………	6

## 【付録】

1 人生のトータルソリューション 概要図……………	7
2 人生のトータルソリューション 概要図 解説……………	8
3 ヨハネの黙示録 概要図……………	9
4 現生幸就……………	10
5 御言葉典……………	11
6 御言葉典 解説……………	12
7 国祭 MyBible 協会のビジョン……………	13
8 国際 MyBible 協会 創立記念ミサ & MyBible 出版記ミサ……………	14
9 朝祷会の歩み……………	15

## 日本で育まれた「愛」のかたち

「愛」という言葉が聖書にはたびたび登場し、それはまるで「魔法の言葉」のように、人の心に深く響きます。この「愛」という漢字をよく見ると、中心に「心」が据えられており、まさに心を伴うものだと気づかされます。

マザー・テレサは「愛とは相手を思いやること」と語りました。その言葉には、愛の本質を鋭く見抜いた深い洞察どうきつが感じられます。

実は、日本にも古くから「愛」の精神は根づいてきました。新渡戸稲造あらわが著した『武士道』にある「七つの徳目」や、「おもてなし」の心などがその例です。たとえば「おもてなし」とは、相手の期待を先回りして、心を尽くして接すること。そこには、見返りを求めない思いやりの心、すなわち愛が自然に表現されています。このように、日本文化における「愛」は、「感性から始まる愛」で、静かに、しかも確かに、日常の中で息づいています。聖書の愛は「神から与えられる愛」です。日本文化はとても美しく、聖書は、その美しさをさらに強め、支え、永遠にしています。

神の言葉が暮らしの中に生かされ、心を豊かにしてくれる日本は、本当に素晴らしい国だと感じています。

聖書で語られる愛は、無条件の「アガペー」や「隣人を自分のように愛しなさい」との教えは、自己を超えて他者に仕える無私の心を求めます。その点、日本の「おもてなし」の精神は、まさにこの犠牲的な愛（アガペー）に通じるものと言えます。

この思いやりの心が、形となって生活に表れているからこそ、日本文化は世界中の人々に感銘を与えているのでしょう。

日本における「愛」の実践は、美しく誠実で、イエスの教えにも深く通じています。現代においても、互いに尊重し合い、支え合う愛のかたちが今も受け継がれているように思います。

また日本では、相手のしぐさや言動から、心情を読み取ろうとする「心のセンサー」が自然に働いているようです。この感度が良くない人を「空気が読めない」と表現し、逆に過敏に反応しすぎると「おもねるおとが（迎合する）」ことになり、自分らしさを失ってしまいます。

聖書には「蛇のように賢く、鳩のように素直であれ」（マタイ 10・16）とあるように、多くの日本人はこのバランス感覚を本能的に身につけているのかもしれませんが。

「愛」が「魔法の言葉」のように人々に響くのは、これが人との絆きずなを深め、人生を豊かにする不思議な力を秘めているからでしょう。

## 『武士道』より ― 七つの徳目

日本の精神文化を支えてきた「武士道」には、人生の指針となる七つの徳が説かれています。これらは、日本人の心に深く刻まれた価値観です。しかし、これらを完全に生き切る力はどこから来るのでしょうか。

日本の文化 福音

### 1. 義—正義 【神の義・ローマ3:24】

義とは、道理をわきまえ、正しいことを貫く姿勢です。

常に自らの行動が正しいかを問い、不正を許さず、信念を持って生きる姿勢が、行動の根幹を成します。

### 2. 勇—勇氣 【十字架上の死】

勇とは、恐れずに正しいと信じることを実行する力です。

それは無謀な行動ではなく、冷静な判断に基づく勇氣であり、正義を貫くのに必要とされる精神的な強さです。

### 3. 仁—慈愛 【自己犠牲の愛】

仁は、他者への優しさと慈悲の心を指します。

強い者が弱い者を思いやり、助け、いたわる。真のリーダーは、力だけでなく寛容と温かさを併せ持つ人のことです。

### 4. 礼—敬意 【へりくだり】

礼は、他者を敬う心をかたちに表すことです。

品位ある態度や礼儀は、調和ある人間関係を築きます。力や地位だけでなく、教養と節度、人格の重要な要素です。

### 5. 誠—誠実 【真理】

誠とは、言葉や行いに偽りがなく、真心を持って生きることです。

約束を守り、嘘をつかず、常に誠実であることが、人との信頼関係を築く土台となります。

### 6. 名譽—尊嚴 【神の姿】

名譽は、人の尊嚴と社会的な評価に関わる徳です。

人としての名を汚さぬよう自らを律し、時にはその名譽を守るために命を賭ける覚悟さえ求められます。

名譽は、内なる道徳が外に現れたかたちとも言えます。

### 7. 忠義—忠誠 【イエスへの忠誠】

忠義とは、主君や家族、仲間への深い忠誠心です。

いかなる困難があろうとも裏切らず、誠意を尽くして仕えます。この忠義の心が、人との深い信頼を築く

礎となります。

この七徳は、現代を生きる私たちにとって、これらの徳が支え合い、人生を豊かにするでしょう。

※※新渡戸稲造著『武士道』より抜粋（要約・一部表現改編）

# 【宣教のビジョン】

## 宣教の現状と今後

現在の日本におけるクリスチャンの人数は、人口のおよそ1%未満とされています。しかも、教会では新たな信徒の増加は見られず、むしろ減少傾向にあります。この傾向は朝祷会（朝食祈禱会の略・エキュメニカルな集い）にも現れており、各教会や朝祷会においては様々な対策が講じられていますが、思うような成果が出ていないのが現状です。

そこで私は、宣教のあり方についての改革ではなく、「革新進化」を提唱します。これは本質を守りながら、方法を進化させることで、従来の方法を見直しながら、より成果の出る方向へ継続的に進化させることです。

わたしは長年、情報システムの構築に携わってきました。構築を始める際にはまず「全体像」を掴むことの大切さを痛感しています。キリスト教においても同様で、全体像について祈り求めていますと、一つのビジョンが示されました。それは、「人生のトータルソリューション」との言葉です。この具体的な取り組みとして「宣教のビジョン」としてまとめ、サブタイトルは「人生のトータルソリューション」「7つの福音を生きる道」として、以下の4つ柱から成り立っています。

### I. キリスト教の全体像を捉える

まずはキリスト教の全体像、その構成要素の7つについて知っていただき、これが出発点となります。

### II. 礼拝を中核とした信仰の実践

神とのつながりを取り戻す中心が礼拝です。構成要素の中核となる「礼拝」に焦点を当て、聖書には「信仰は聞くことから始まる」（ローマ書 10:17）とあるので、このみ言葉を実践し、み言葉と説教を聞くことを通して、信仰が養われます。

### III. 信仰の基礎体力を高め証しの実践

個人の信仰の「基礎体力」を高めることで、救いの実体験（証し）が生まれ、自発的な「口コミ宣教」として、身近な人への呼びかけができるようになります。このための訓練の道場が、教会での「み言葉の分かち合い」が重要な役割を果たします。この取り組みを容易にするために、イエス・キリストの生涯に倣います。彼は神でありながら「人」としてこの世に来られて生き、死に至るまで人として歩まれ、人との間には隔たりはなく、深い信頼関係を築かれました。私たち信徒間に上下関係はなく、同じ立場で共に学び合い、分かち合うことが大切です。聖書の解釈や説明は難しいと感じる方も多いようですが、すでに取り組んでいる聖書の学びの資料「み言葉に生きる招き」や気づきを共有することで、十分に分かち合いの場を築くことができます。

「信徒主体型の宣教」スタイルは、イエスが弟子たちの心に灯をともし、弟子たちが自らの言葉を用いて福音を広めたように、今の教会には「口コミ宣教」により福音を広げるのが鍵になるでしょう。

### IV. 時代に対応した宣教手法の活用

SNS や YouTube といった現代のツールを活用することで、個人への直接アプローチは可能です。それぞれの発信者にとって最適な手法を活用し、コンテンツ内容・効果・コスト・要員の観点から選択することが重要です。わたしは、東京教区ニュースなどを活用し、ホームページを周知することで、個人の方が直接アクセスされ、必要なコンテンツを取得できる仕組みにしています。

# 【人生のトータルソリューションとは】

## ～7つの福音で生きる道～

### ◆はじめに

人生には、避けることのできない苦難と根源的な問いがあります。「なぜ生きるのか」「死とは何か」「希望はどこにあるのか。」キリスト教は、この問いに対して曖昧な慰めではなく、一つの明確な道を示します。それが「人生のトータルソリューション」7つの福音を柱とする生き方です。①復活祭（永遠の希望）②洗礼（新しい命）③聖霊（内なる導き）④礼拝（神との交わり）⑤イエスに倣う（実践）⑥降誕祭（愛の具現化）⑦教会（共同体の歩み）この7つは部分ではなく、互いに響き合い、人を内側から変え、人生を完成へと導く生きた力です。この道は、人生の闇に光を灯し、絶望を希望へ、そして希望を現実に変え、人生を完成に導く、神の設計図です。【付録】参照

### 1. MyBible シリーズ（礼拝とみ言葉）

構成要素の中核は「礼拝」であり、み言葉と説教を「聞く」ことが信仰の土台です。（ローマ書 10・17）この助けとなるのが、多くの方々のご協力と励ましをいただき、日本語版の MyBible シリーズ（全8巻）が制作されました。その後、英語版（全6巻）が完成し、国際 MyBible 協会 創立記念ミサ（2022年5月6日 東京カテドラル聖マリア大聖堂 地下聖堂）で奉獻し、今はバチカン本部で、全世界に向けた種蒔きを待っています。

### 2. 教会でのみ言葉の分かち合いと冊子の活用

要素の7つ目の「教会」は、信徒が主体的に取り組み、実践する場です。カトリック西千葉教会では、毎週日曜日のミサ後「み言葉の分かち合い」を開催し、2026年2月8日で123回となりました。この会では、信徒が「聖書と典礼」※1にある聖書箇所を解説し「基礎体力」を養い、他者への呼びかけ（口コミ宣教）が自発的にできるよう取り組んでいます。分かち合いの記録は 国際 MyBible 協会のホームページに「み言葉に生きる招き」と題して掲載しています。※2この内容をまとめた冊子として「み言葉と分かち合い」B年・C年度版が完成しました。これを、国内外の信徒同士で分かち合う姿勢が、現代の宣教の一つの形と考えます。

### 3. 2つのみ言葉と心がけ

「み言葉に生きる招き」を作成するについては、以下の2つのみ言葉を念頭に置いています。

- ①「あなたがたは神の神殿であり、神の霊が宿る」（1コリント 3・16）「聖霊が宿る共同体として一つになり歩む」
- ②「自分を無にして…人間と同じ者となられた」（フィリピ 2・6-7）に倣い「自分を誇らず、へりくだる者になる」

### 4. 分かち合いから得た気づき

この学びにおいて、旧約と新約は深くつながっており、<sup>たと</sup>喩え話の意図を知ることの大切さ、聖書は文化・歴史と密接に関係しており、理解が深まるにつれ信仰も熟成されていくことです。

### 5. おわりに

この冊子の完成に伴い、「国祭 MyBible 協会のビジョン」が一步現実へと近づきました。【付録】参照

日本をはじめ世界中で、この取り組みを通して多くの方々が主と出会い、救いへと導かれることを心から願っています。

### 6. 結びのみ言葉

<sup>あした</sup>朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり 孔子

イスラエルよ、わたしたちは幸いである。神の心にかなうことを知っているのだから バルク書4章4節

【付録】1.人生のトータルソリューション概要図 2.人生のトータルソリューション概要図解説 3.ヨハネの黙示録概要図 4.現生幸就<sup>げんせいこうじゆ</sup>5.御言葉典

6.御言葉典 解説 7.み言葉の分かち合いのご紹介 8.国祭 MyBible 協会のビジョン 9.国際 MyBible 協会創立記念ミサ & MyBible 出版記念ミサ

※1.「聖書と典礼」の聖書箇所は、全世界のカトリック教会のミサでは共通に読まれており、A～C年で構成され、聖書全体の概要が把握できます。

※2「み言葉と分かち合い」B年度版（無料）は自由に閲覧・ダウンロード可能です。 URL <https://mybible.tokyo/download2/>

## 「み言葉の分かち合い」のご紹介

カトリック西千葉教会信徒 蒲池 明憲

### I. 会のビジョン

西千葉教会における「み言葉の分かち合い」の信徒活動が、全国から全世界に普及することにより、主の御名が賛美されると共に、世界宣教への幻が適えられますようにとの祈りを献げながら、この活動に取り組みます。

【全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。マルコ16・15】

### II. み言葉の分かち合いとは

ミサで用いられた『聖書と典礼』に掲載されている各聖書箇所について、まず一人ひとりが心に響いたことを分かち合います。その後、同じ箇所を「み言葉に生きる招き」とした文書を朗読し、み言葉を自分自身の生活と結びつけてみます。これを、分かち合いのための「解説付き黙想文」として用いていただけるように ①聖書全体の流れを踏まえた概要 ②み言葉の解説 ③日常生活における具体的な実践への導き ④分かりやすい ⑤コンパクトな文章にまとめ、未信者・信者を問わず、多くの方々の魂に届き、深く刺さるものとなるようにとの願いを込めています。

この文書は、国祭 MyBible 協会の公式サイト ダウンロード 2 より、無料でダウンロードできます。(英語版掲載中)

【会のメンバーからの率直なコメント】

聖書の深い学びに触れることへの恵みと、聖書の真理を知らずに歩んでいた信仰生活を顧みています。

### III. 会次第

#### 1. 開催日時

- 1) 毎日曜日、7時30分のミサ後、カリタス会館1階において開催。
- 2) 現在までに123回開催。アクセス数：150件/日。将来の目標：100万件/日。

#### 2. 讃美「ガリラヤの風かおる丘で」ウクレレの伴奏。

#### 3. 開会の祈り（自由祈祷）

#### 4. 「聖書と典礼」を活用して分かち合います

#### 5. 讃美「キリストはぶどうの木」ウクレレの伴奏。

#### 6. 閉会の祈り（自由祈祷）

各人が、当日の分かち合いでの思いを祈ります。

#### 7. 閉会時間 9時15分。

### IV. 「み言葉に生きる招き」を集約した冊子のご紹介

本冊子は、個人の祈りと黙想のため、また小さな共同体における「み言葉の分かち合い」の助けとして用いることを意図しています。それぞれの場に応じて、自由に用いられることを願っています。

2024年B年度、2025年C年度の冊子も、無料で「ダウンロード2」より取得できます。

### V. 東京教区ニュースに紹介記事掲載中

毎月の東京教区ニュース VIVID（紙面）、eVIVID（Web版）に、活動の紹介記事が掲載されています。

※詳細・ダウンロードはこちら URL <https://mybible.tokyo/download2/>

■第124回 み言葉に生きる招き 《解説と黙想》

●第1朗読 イザヤ書 58・7～10

バビロン捕囚からの帰還後、礼拝や断食などは再開されますが、不正や貧困があり、民は「断食しているのに神はなぜ顧みてくれないのか」(イザヤ 58:3)と嘆き、主は形式的な信仰になるなど告げます。(イザヤ 58:3-6) 自らの生活から犠牲的な分かち合いとして「自分のパンを裂き与え」回復するまでの面倒をみるのに「家に招いて」(ルカ 14:13-14)も喜捨を忘れない。生存には「裸の人には衣を着せ」言葉だけにならず、(ヤコブ 2:15-16) 見て見ぬふりをせず「同胞への助けを惜しまず」善きサマリア人に倣います。(ルカ 10 章) 人の歩みによって神の光は現され「あなたの光は曙のように射出で」ます。(マタイ 5:16) 捕囚で崩壊した共同体や人格の回復で「傷はいやされ」神に喜ばれる生き方(もうこきしめ)によって「正義があなたを先導し」人の先と後(弱さ・過去)の「しんがり」を神に「守られる。」祈りは神に届き神は喜ばれ、主を「呼べば主は答え、ここにいる」と言い、不当な要求や抑圧で「軛を負わし」責任転嫁や非難で人に「指をさし」人を傷つけて共同体を壊す「呪いの言葉」は取り去り、相手を思って「心を配り」また、「苦しむ人」の求めを理解して「願いを満たすなら」神の「光は闇の中で輝き」闇は「真昼のようになる。」神の恵みは、神に喜ばれる生き方で得られると語られており「信仰は行いによって完成する」(ヤコブ 2:22)とあります。

●第2朗読 1コリントへの手紙 2・1～5

パウロの手紙の目的は、教会にある「人間的な価値観」を正し、信仰の土台を「神の力」に戻すことです。人ではどうにもならないところに働くのが「神の力」で、①人を生かし、救う力(弱者を支え、回復させ、心を新たに)②立ち上がらせ、命を与える力(絶望から希望へ、縛りを解き放つ)③人を愛に導く実践力です。パウロがコリントに教会を建てるために(使徒 18 章)「そちらに行った」時が信仰の出発点です。イエスの十字架での死、復活による永遠の命、新しい神の国での生活が始まるとの良き知らせが「福音」これを聞いて心は開き、イエスに似た者へと造り変えられていくプロセス(2コリント 5:17)が「救い」で、神の秘められた計画(エフェソ 1:9)です。救いの恵みを歩むには人の努力ではできず、(エフェソ 2:8) 聖霊の力(ガラテヤ 5:16)で歩むことで、主に喜ばれる道へと導かれます。これを宣べ伝えるのに「人の言葉や知恵を退けた」のは、「十字架のイエスを中心」とし、これ以外は「何も知るまいと心に決めた」からです。パウロの「弱さ」とは、①身体的・精神的な「衰弱」②町における迫害や反対者に対する「恐れに取りつかれ」③神の力にすがらざるを得ない「不安。」これらの弱さがあるときこそ「神の力」が働きます。(2コリント 12:9) 福音を伝える「わたしの言葉」は、人の理論や技法の「知恵にあふれた言葉に」頼らず、聖霊の働きによって「霊と力」が与えられ、話し上手な「人の知恵に」は頼らずにいると、神の力が働き、この「力をより信じる」ことで「信仰の土台」は揺らぐことはない。【著者の一言】福音と救いが良く分かり、救いの道を歩みたいと思いました。

●福音書朗読 マタイ 5・13～16

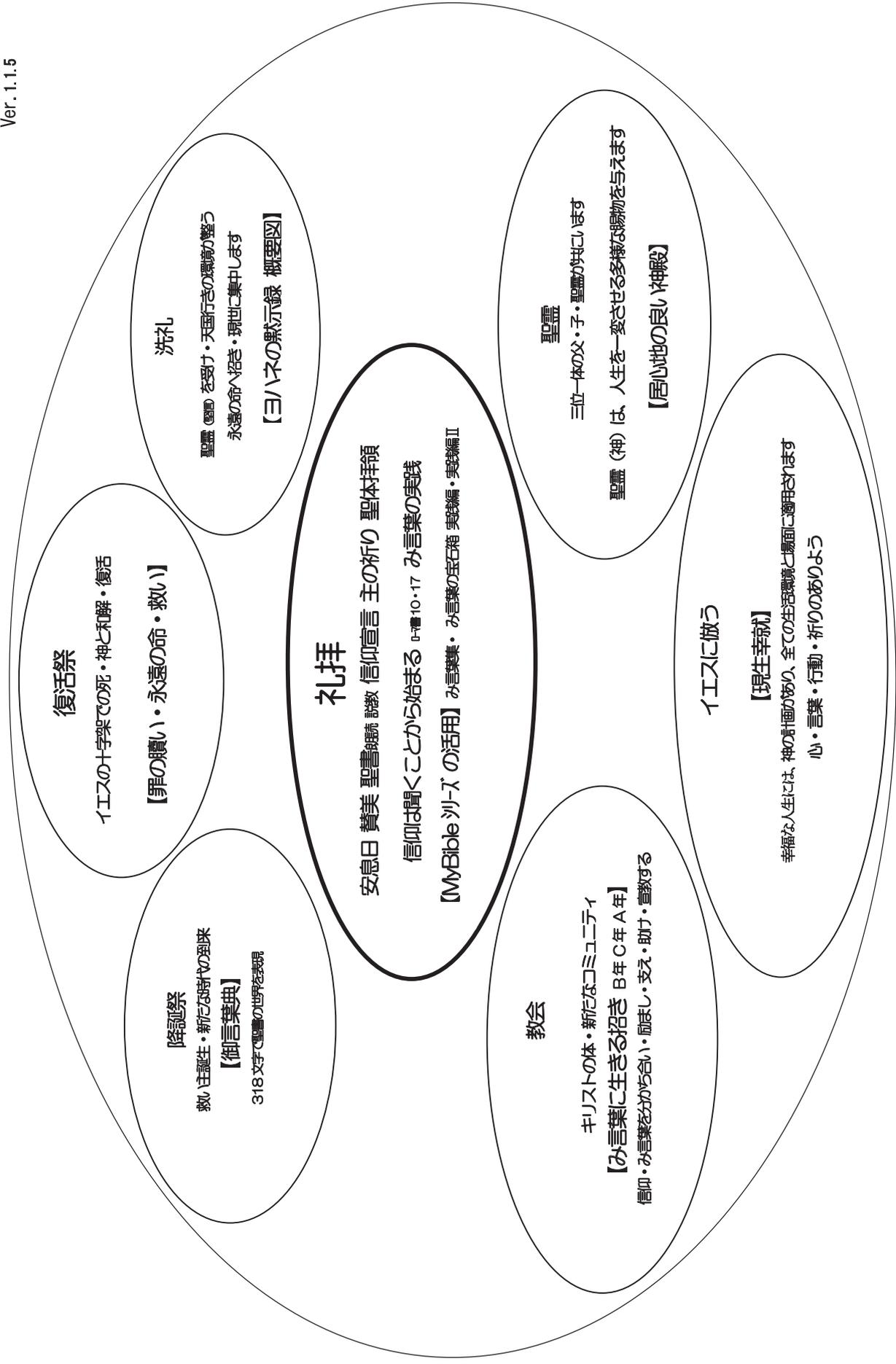
イエスが山上で真福八端(内面)を語った後、塩と光(外面)の「生き方」について語られます。塩の役目は、腐敗防止(保存)、味を整え(良さを引き出す)、清めと契約(レビ記 2:13、民数記 18:19)があり、必要不可欠な存在が「地の塩」です。当時の塩には不純物が含まれており、塩分が抜けると本来の機能(本質)は失い、これと同様、信仰(神との関係)を断つと「何の役にも立たない」月は太陽の光を浴びて輝いて見え、人も神の光を浴びて輝くのが「世の光」です。「山の上にある町」の灯は夜でも見え、神の価値観で生きる者は自然体で「目立つ」ことなく「隠れることはできず」神から与えられ恵み(信仰、命、使命)の「ともし火」を、穀物を量る「升の中の下」に置くと灯は消え、恐れや他者との比較も神の光を消します。光(ランプ)は役目を果たす「燭台の上」に置き、人も与えられた場所で咲かせます。光は分け隔てすることなく届かせ「すべてを照らし」神との交わりを続けながら「輝かせなさい」真福八端に基づくあなたの「立派な行い」によって「父をあがめるように」なります。主はいつも「見ておられる方」(マタイ 6:31)であり、イエスは「なりなさい」でなく、塩や光に「すでにされている」と断言されておられるので、イエスに近づいていくことでしょう。

【著者の一言】み言葉は尽きることのない泉のように思いました。

著者 蒲池 明憲

# 人生のトータルリノベーション 概要図

Ver. 1.1.5



- ・創世記 1・1 初めに、神は天と地を創造された
- ・ヨハネの黙示録 22・21 主イエスの恵みがあなた方一同とともにあります

## ◆ 概要

信徒は、現世の生活と、新しい神の国への旅路が理解でき、神との永遠の交わりの確信が、永遠の希望を生み、これが、あらゆる生活環境（職場・社会など）での試験や苦難を乗り越える原動力となり、夢を適える人生の土台となります。

## ～7つの福音で生きる道～

### 1. 復活祭（永遠の希望）

イエスの死で人類の原罪は赦され、神と和解し、イエスの復活で死の支配から解放されました。この福音が教いの扉を開き、人が聖霊に導かれてイエスに倣うことで、神の国で永遠の命を生きます。

### 2. 受洗（新しい命）

受洗（赦信）により、聖霊で主と結ばれ、原罪と誕生から受洗までの罪は赦され、永遠の命に与り、神の国への歩みが始まるので、現世に専念します。

## 【ヨハネの黙示録 概要図】

### 3. 聖霊（内なる導き）

1) 聖霊は、人ではなし得ない賜物が与えられ、聖霊が常時に住むことで、日々の決断や言動を導きます。

2) 三位一体：父・子・聖霊は働きは異なりますが本質は一つです。

## 【居心地の良い神殿】

### 4. 礼拝（神との交わり）

安息日は主を讃美し、み言葉と聖体で信仰を養うことで、人生の方向が明確になり、日々の生活に自信と活力が溢れます。

## み言葉集【MyBible シリーズの活用】

### 5. イエスに倣う（実践）

1) 主を模範（心・言葉・行動・祈り）にし、自律した人を目標にして、信仰を道具化せず、神のシナリオに基づく人生は、試練を通して成長と喜びが得られます。

2) 主の教えは、人生のあらゆる生活環境に適用され、愛の掟（マタイ 22:37～40）と十戒（出エジプト記 20:3～17）の実践は、人生を豊かにします。 【現生幸就】

### 6. 降誕祭（愛の具現化）

主のご降誕は、神の愛の具現化と新時代の到来となり、これに感謝します。

## 【御言葉典】

### 7. 教会（共同体の歩み）

信仰の教会共同体（コミュニティ）は、信仰やみ言葉を分かち合い・経験・知恵を共有し、宣教活動は、自己を成長させ、信仰を高め・深め・広め、人生に立ち向かう強力な砦となります。 【み言葉と分かち合い B年C年A年の活用】

# ヨハネの黙示録 概要図

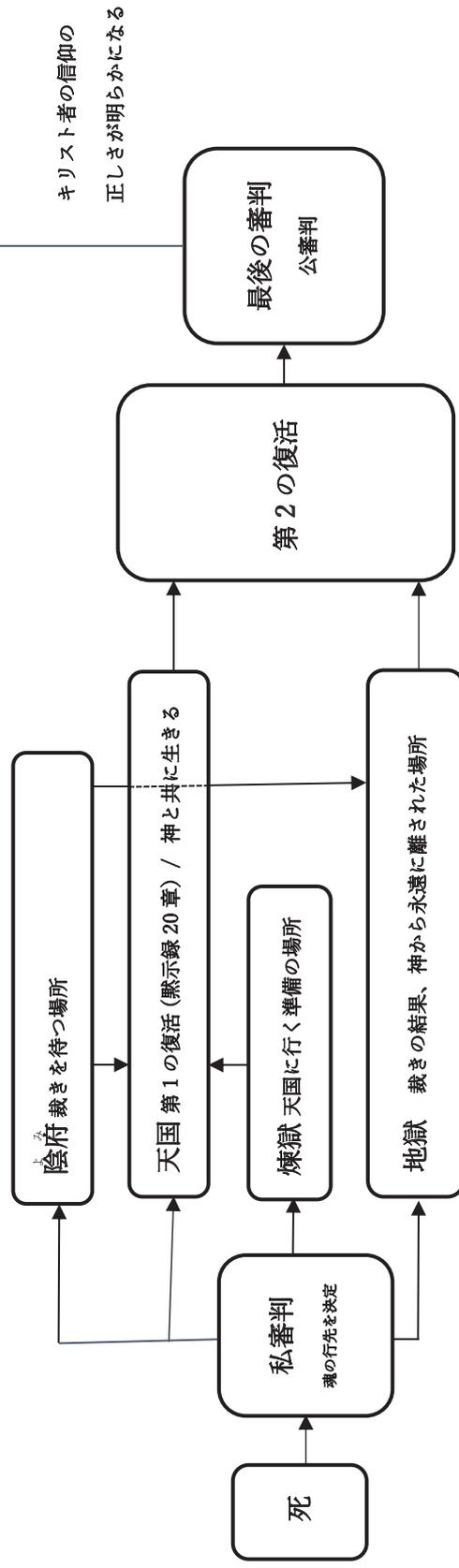
Ver.1.5

## 「神の救いの計画」

### 1. 人類についてのフロー



### 2. 人の死後についてのフロー



※主に倣う者（心・言葉・行動・祈り）を魂の土台  主の死と復活の恵みに希望を抱き現世を生きる

「希望の完成図」



御言葉典

神天地創造 土男骨女生蛇喰罪入神人間  
溝生贖主誕生預言 聖靈救主誕生主受洗  
神國宣教開始 癒慰勵喜奇跡 最後晚餐主体  
食血飲 受難十字架刑 三日目復活 昇天  
聖靈降臨 受洗罪赦 人死煉獄罪償天国地獄  
父子聖靈三位一体 体靈宿神殿 欲執着苦招  
主授十戒 一心成 他許寛容 善聴惡疎先祖敬  
主畏知患得 恐失望主不在 試練訓練 忍耐救  
主山備有 無所有 惱断 愛人思心 思惱妄想  
言葉実践 主道真理 悲死招 疑怒断 復讐主委  
苦悩主軛負 主正人報 不誠実滅 陽気良菓  
陰気骨枯 銭慾悲 惜与善 言葉言靈 舌制成功  
真福八端 主心言葉行動 祈做自律人 主感謝  
求与探見叩開 主神僕遜 前後際断 忘己喜他  
靈満熱心祈委 疲熱想 言葉主知患健康財産  
命捨与守失 造福音宣教 信仰望保証見確信  
言葉羅針盤 見栄虚栄断 主靈繫言葉有望叶  
知患英明良動機 祈叶 主祈誓唱微唱 信祈全叶

大司教 菊地 功殿 多様性一致實現祈念

第一卷 平成三十年七月吉日 蒲池明憲謹書

## 御言葉典

神は天地を創造された 土かゝる男が骨から女が生まれ蛇に咬そのかまれ罪が入り神と人の間に

溝が生まれる 贖い主の誕生を預言 聖霊で救い主誕生 主の受洗

神の国は近いと宣教を開始した 癒し慰め励まし喜びの奇跡を告ぐ 最後の晩餐で主の体を

食べ血を飲む 受難と十字架刑 三日目に復活 昇天

聖霊降臨 受洗で罪赦される 人は死で煉獄と罪償い天国又は地獄へ

父と子と聖霊の三位一体 体は霊が宿る神殿 欲を執着は苦を招く

主の掟と十戒を守る 一の心と成る 他を許し寛容となる 善に聴く悪に疎い 先祖を敬う

主を畏れ知恵を得る 恐れや失望は主が不在 試練は訓練もあり忍耐で救われる

アドナイ エロ  
主の山に備え有り 無所有が悩を断つ 愛人を思いやる心 思に悩むは妄想

み言葉の実践 主の道と真理 悲しむは死を招く 疑い怒りを断つ 復讐は主に委ねる

苦悩には主の軛くびきを負う 主の前に正しい人は報われる 不誠実は滅びる 陽気は良薬

陰気は骨を枯す 銭の欲は患 惜しみなく与えるは善 言葉は言霊ことばま 舌を制して成功せよ

しんぶくはつたん  
真福八端を勉む 主の心と言葉と行動と祈りを倣って自律した人になる 主に感謝せよ

求めれば与えられ探せば見いだし叩けば開かれる 主は神の僕となり 遜る 前後際断 忘己喜他へりくだ せんごさいだん むごこぎた

霊に満され熱心に祈りもば委ねる 疲れに黙想 言葉と主の知恵と健康と財産

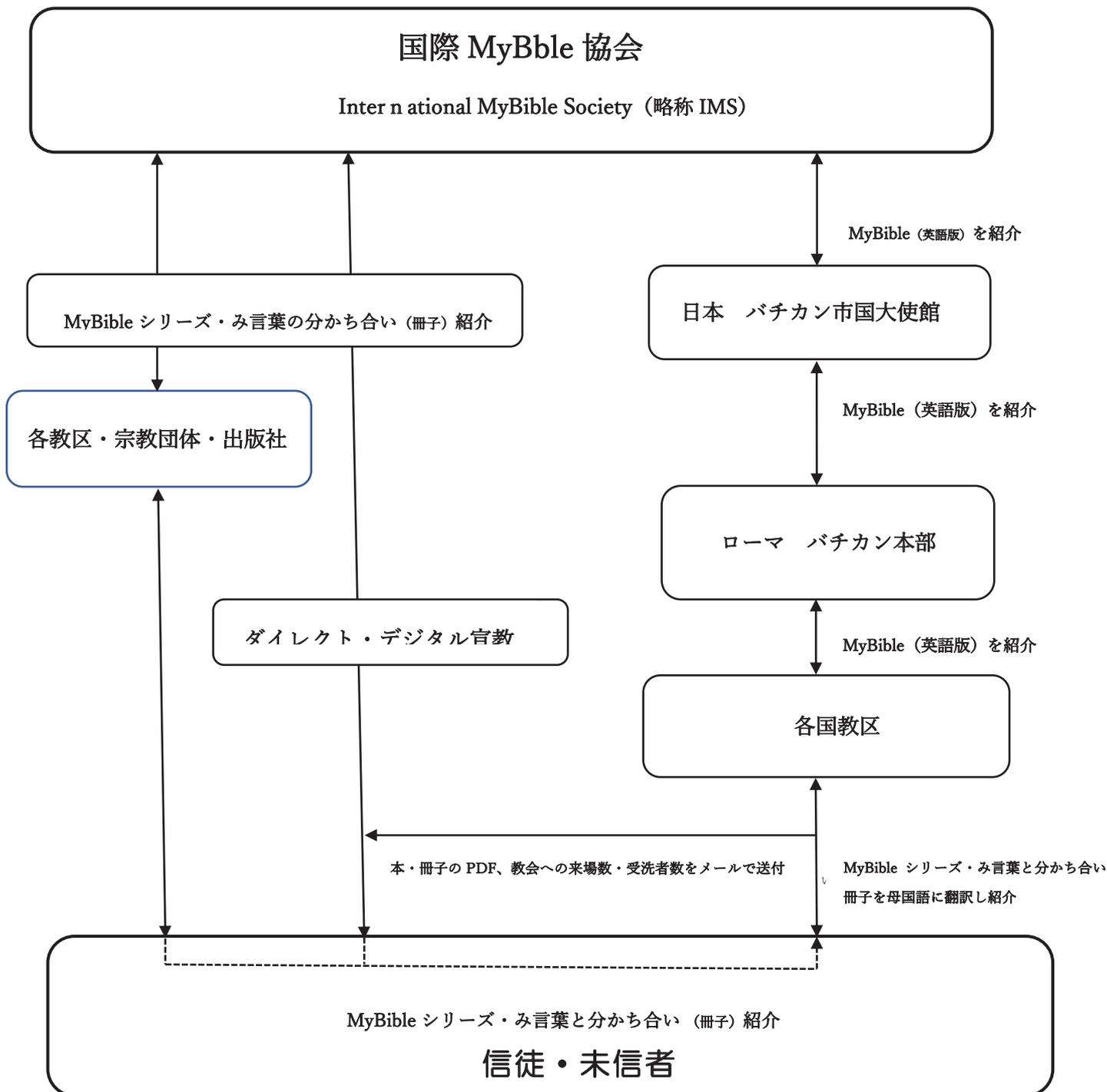
命を捨てる者は与えられ守る者は失う 造られた事に福音を宣教せよ 信仰とは望みを保証し見えない事も確信する

み言葉は羅針盤 見栄や虚栄を断つ 主と霊で繋がりみ言葉が有れば望みは叶うつな

知恵と英明ロサ・ニオの良き動機での祈りは叶う 主の祈り薔薇を唱える 信じて祈れば全し叶う

御言葉典は、M V B i b l eシリーズを要約したものです。これを序経用に活用される場合には、御言葉典にある

大きな漢字のみをご利用ください。尚、漢字の文字数は、318文字です。



1. 「MyBible シリーズ・み言葉と分かち合い」を母国語に翻訳して出版される場合。無償配布は、著作権の使用料は無料とし、著作者の表示のみになります。出版された電子書籍 (EPUB・PDF) のデータはIMSに送付願います。なお、この本や冊子がきっかけとなり、教会に導かれた方や受洗者をIMSに、随時メールにて送付願います。IMSでは、海外から寄せられたEPUB or PDFのデータを、IMSのサイトからダウンロード(無料)でご提供すると共に、ダイレクト・デジタル宣教を実施します。

2. IMSは、デジタル宣教活動により、日本及び世界にみ言葉の種を蒔き、福音を宣べ伝え、運営は、寄付や献金で賄います。

国際 MyBible 協会創立記念ミサ & MyBible 出版記念ミサ



2022年 5月 6日  
東京カテドラル聖マリア大聖堂 地下聖堂  
国際 MyBible 協会創立記念ミサ



2005年 4月 15日  
東京カテドラル聖マリア大聖堂 地下聖堂  
MyBible 出版記念ミサ

## 朝祷会の歩み



東京国祭朝祷会 開催場所 神田YMCA



市川朝祷会 開催場所 山崎製パン企業年金基金会館 2F



千葉朝祷会 開催場所 千葉YMCA

序文者紹介 菊地 功 (きくち いさお)  
1958年 11月 岩手県宮古市生まれ  
1986年 司祭叙階  
その後94年まで宣教師として西アフリカのガーナに派遣。  
帰国後、神言会の役職に就く。  
2004年 新潟司教に任命され司教叙階  
2017年 東京大司教に任命、着座  
2024年 枢機卿に親任される

著者紹介 蒲池 明憲 (かまち あきのり)  
1950年 8月生まれ  
日本自由メソヂスト教団大阪日本橋キリスト教会にて受洗  
父の知人が所属する日本キリスト教団池田五月山教会に転会  
両親が所属する日本キリスト教団むさし小山教会に転会  
結婚にともない、日本キリスト教団東京池袋教会に転会  
家族一同、福川 正三氏 (カトリック麻布教会信徒) を代父として、  
カトリック東京カテドラル関口教会信徒となる  
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、カトリック西千葉教会に転入  
千葉朝禱会所属 (開催日 毎月第1、第3金曜日 開催場所・千葉 YMCA 7F  
株式会社 三和銀行 (現 三菱 UFJ 銀行) 入行  
株式会社 千代田情報システム 代表取締役社長  
国際 MyBible 協会 理事長

今の宣教とは

著者 蒲池 明憲  
発行元 国際 MyBible 協会  
URL <https://mybible.tokyo/>

2025年 6月 15日 初版発行  
2026年 2月 15日 改訂版発行

Kamachi Akinori 2025 Printed in Japan  
©Kamachi Akinori 2025

